



PREX NOW



財団法人 太平洋人材交流センター
Pacific Resource Exchange Center

contents

page 1 セミナー
重慶市の情報産業振興にむけて

page 2 レポート
インドネシア人材育成プロジェクトの
調査団に参加

page 3 レポート
タイPREX同窓会、独自セミナーを開催

page 4 レポート
ベトナム青年との交流
～合宿セミナー参加者の声

page 5 特集【各国研修員からのメッセージ】
ウクライナ スヴァントネンコ・ヴォロジミルさん

page 6 PREXだより
事務局ニュース
11月実施の研修
コラム



重慶市の情報産業振興にむけて

PREXは、8月28日～9月28日、重慶市科学技術委員会 ハイテク部 副部長 王東亜さんとプロジェクトチーフ 許志鵬さんの2人を対象に、JICAの「地方提案型研修」として、「重慶市情報産業振興セミナー」を実施した。

参加者のニーズを反映

当セミナーは、3つの点で「初めて」のセミナーであった。

1. 今年度で10年を迎えるPREXと重慶市との交流の中で、初めてJICAより支援を得た。
2. JICAでも新しい試みである「地方提案型研修」を、PREXとして初めて実施。
3. PREXとして初めてのテーマ「情報産業振興」。

実際の研修は8月28日から始まったが、研修の準備は5月よりはじめていた。まず、重慶市へ出張して、現地の情報産業を視察し、研修参加者と直接面談した。彼らからは多くの希望項目が挙げられ、研修が始まるまでの3カ月の間に、メールやFAXで情報交換をしながらコースを組み立てることができた。人数が少なかったこともあるが、彼らのニーズをすべてカリキュラムに反映することができた。

1カ月にわたり、びっしりのカリキュラムにもかかわらず、彼らは最後まで熱意を失わず積極的に、大阪でのプログラムに加えて、浜松、東京、広島と、約10日間の研修旅行にも行き、各地で様々な知識を吸収した。

重慶市と情報産業

重慶市は中国第4番目の直轄市であり、西部地域の拠点である。情報産業を振興し、重慶市の主要産業の一つに育成することを目指すと同時に、同市における企業内での情報技術(IT)の効果的な導入を促進し利用することは、不利な地理的条件の克服、企業の活性化、起業・創業の促進につながる。また、同産業を従来の重厚長大型産業に対する産業構造高度化への牽引役とも捉えている。先進的な沿海部とは異なり、重慶市は全国レベルでみても中の下くらいであるとのこと。今後一層力をいれて取り組まれる予定である。今回熱心にいろんな知識を吸収した2人が、重慶市の情報産業振興のために必ずや大きな役割を果たされることを確信している。

今回お世話になった皆様、中でも特に流通科学大学の辻教授と、関西情報センターの方々にはコースの企画時点からコース全般にわたってご助言いただき、ありがとうございました。

国際交流2部 主任 酒井 明子



松下電器産業を見学。日本企業からみた中国のIT産業の現状と課題について意見交換も行った



京都府立医科大学にて「遠隔医療」について見学。研修を受けた王さん(右から2番目)と許さん(中央)筆者酒井(左端)

お世話になった企業・団体他(訪問順・敬称略、本文中の記載分は除く)

神戸大学 石原教授、大阪府日中友好協会、松下電器産業、近畿経済産業局、京都府、USJ、大阪産業創造館、大阪商工会議所、イメディアオ、クワンティ、EMSデータ、スズキ、内閣官房IT担当室、NTTデータ、ITS JAPAN、CRCソリューションズ、3rainbow、東芝、広島市、マツダ、ユニオン、シャープ、ケイ・オプティコム、東大阪HITグループ、京都デジタルアーカイブ研究センター、大阪府立南みは高等学校、立命館大学、京都府医科大学 土橋助教授、オムロン

インドネシア人材育成プロジェクトの調査団に参加

JICAのプロジェクト方式技術協力事業「インドネシア貿易セクター人材育成計画」が、インドネシア輸出振興庁・貿易研修センター(IETC)の企画運営能力向上を目的に、1997年3月から2001年2月まで実施された。これに引き続き1年間のフォローアップ協力が現在実施されつつある。PREXはJICAより委託を受け、これら事業の国内委員会事務局として事業推進を行っている。一方、IETCの地方展開に係る新たなプロジェクト方式技術協力の実施が日本に要請されており、この要請内容を精査する為に短期調査団がJICAより派遣され、団員として参加する機会を得たので以下報告する。



調査団の概要

団員構成は、JICA国際協力専門員を団長に、JICAより2名、外務省、経済産業省より各1名、PREXより国際交流2部プロジェクト担当部長深津、関野部員、オブザーバとしてPREX津曲事務局次長の計7名であった。

調査期間は8月12日から25日、夏休み最中の約2週間であった。

調査スケジュールは、ジャカルタでインドネシア政府関係部署等への表敬訪問を皮切りに、4地方都市調査に引き続き、インドネシア商業工業省輸出振興庁、IETCとの打ち合わせと内容確認の覚書の取り交わしを行ない、最後にJICAジャカルタ事務所と日本大使館への調査結果の報告を済ませ、その夜の飛行機便で帰国するという、2週間休み無しの心身ともに大変ハードなものであった。

地方調査

調査団を2班に分け、調査候補地の4箇

所を、各2箇所ずつ調査を行なった。自分の班は、スマトラ島北部のメダンとカリマンタン島南部のバンジャルマシに、また別の班はジャワ島東部のスラバヤとスラウェシ島のマッカサルに行き現地調査を行った。

メダンは独立運動の続くアチェが近い為か、付近の道路を走っている自分たちの車の中まで、軍の駐屯地における行進の号令が聞こえてきたのが印象的であった。バンジャルマシは“アジアのベニス”と言われるほど市民の生活と水路が密着しており、カヌー風の小船を実に巧みに操るおばさん、おじさんに関心することしきりであった。

ともあれ、地方政府との打ち合わせは、大きな会場にズラーと居並ぶ相手方関係者の数の多さに加えて、インドネシア語の機関銃に圧倒されそうなところを、ひたすら聞き役にまわるといふ、精神的にも大変ハードなものであった。民間企業訪問によるニーズ調査では体調を崩す団員も出て、結構厳しいものであった。

一方、しらす(ちりめんじゃこ)がインドネ

シアの女性たちの手作業で選別され、1匹ずつ大きさを揃え、輸出され、日本の食卓にあがっていることを知り、縮緬雑魚1匹たりとも粗末に扱えないなという思いを新たにできた。

調査団員所感

今回の調査で新規事業の骨組みを明らかにすることが出来た。早朝4時起床6時空港発の地方調査と、夏休みもお盆も、勿論土日・祝日も無しのJICA調査団であったが、団長始め団員皆が真摯にインドネシア側の要望を聞き、議論を尽くそうとの態度を、調査期間を通して貫くことができた。最近風当たりの強いIODA予算による調査団ではあるが、決して税金の無駄使いではないと、調査団に参加してみても、改めて確信した次第であった。

国際交流2部 プロジェクト担当部長
深津 猛夫



地方政府と打ち合わせの様子



民間企業(ラタンバスケット製作工場)を訪問



食料などを売り買ひする水上マーケット風景

タイPREX同窓会、独自セミナーを開催

タイPREX同窓会は、8月27日から31日の5日間、タイ国内のバンコク、チェンマイ、ソンクラエの3箇所で、延べ129名の研修生を集めて、初の自主運営セミナーを実施。PREXは、このセミナーに3名の日本人講師を派遣し、セミナーの運営を支援した。

セミナーの運営は、コスト・シェアリング

このセミナーの計画は、PREXが企画運営した昨年3月のマレーシアでの関経連アセアン海外研修から始まった。その時、研修生として参加していたチェンマイの商工会議所会頭が、PREXの企画したプログラム内容にたいく感激し、チェンマイでのPREX研修を希望。そして今回、かねてよりセミナーを受ける機会の少ない地方都市でのセミナーを希望していたタイPREX同窓会メンバーといっしょになって、その希望を実現したのである。しかもそのセミナーは、現地側費用をタイ側が負担し、PREXが負担するのは、日本からの派遣講師費用のみというコスト・シェアリング方式が採用された。

タイPREX同窓会は、1993年に、研修を受けた卒業生の親睦を図るために自主的に結成された。その同窓会が、自分たちで自国の人材育成活動を図るのも画期的であるのに、その費用の一部も自分たちで調達できるまでに活動が成長している。

ストライキング・ザ・ジャパニーズ・マーケット

“Striking the Japanese Market”と題したセミナーの第1日目は、まず小田野滋賀大学教授の講義から始まった。そして、梅木インターリンク社長の「実戦的マーケティング」の講義。締めくくりは、前述のお二人と私の3人でのパネルと質疑応答という3部構成で実施。2日目は企業訪問を行った。チェンマイでは、鈴木日本領事にも列席いただき、現地TV局や新聞の取材も受けるなど、極めて盛大なセミナーとなった。



タイ(ソンクラエ)で講義する
滋賀大学経済学部小田野教授と筆者(森本)



上)セミナー後、参加者と(チェンマイ)
右下)講義を受ける参加者の様子(チェンマイ)

セミナーでは、「どのような商品が日本で人気なのか」という「最新マーケット情報」に質問が集中したが、「日本人に自社を訪問してもらった時、良い印象を持って帰ってもらうにはどのような対応をすべきか」といった、お客サマへのこまやかな気遣いを感じさせる「ほほえみの国、タイ」ならではの質問もあり、日本人3人、しばし回答に苦慮する場面もあった。

PREXの元研修生が、タイ国工業省の事務次官補に昇進

海外に出かけての研修の楽しみの一つに、元研修生に会えることがある。そしていつも彼らが偉くなっていることに驚く。今回、1996年の関経連/PREX研修に来日したサティットさんに面談する機会を得た。彼はいつも忙しい時間の合間をやりくりして面談の時間を作ってくれるのだが、今回、驚いたことに大きな個室を持つ部屋に案内された。聞くと、彼は10月に工業省

の事務次官補に昇進するということだった。もうすぐ官僚の最高峰。いまでも彼はPREXのファンで、今回のバンコクのセミナーでも、会場として工業省の大きなセミナールームを無償で提供するよう尽力してくれた。そして、「PREXが継続的にタイ国民に対して、人材育成の支援を行っていることに深く感謝する」と、かえってこちらが恐縮するような態度で接してくれる。

そして、タイPREX同窓会長(1983年の関経連研修生)は、今年1月に上院議員に当選。このようにPREX研修生にはずばらしい指導者が出てきている。これはPREXにとってもうれしい成果である。

このすばらしい成果を汚すことなく、次の10年、更に、PREXの活動が、より一層の“日本国の顔”が見える支援の一助となるように努力して行きたい。

国際交流1部 部長 森本 亮造

ベトナム青年との交流～合宿セミナー参加者の声

7月27日から3日間、「青年招へい事業」プログラムの一環として、経済分野のベトナム青年23名と一般募集で集まった日本人青年22名が、兵庫県の旅館でベトナムと日本の交流をテーマに合宿セミナーを行った。以下、参加者の声を紹介。(セミナーの詳細は本紙108号で報告)

私が合宿セミナーに参加するまで 電波産業会 瀬戸口 正志さん



これまで他国の人ととの交流などしたことのない私がふとしたきっかけで合宿セミナーへ参加することになりました。

日越それぞれのメンバーはいろいろな企業から参加していましたが、その中でも参加することになったきっかけが偶然の連続であったので、そのことについて書いてみたいと思います。

私は、3月にベトナムへ一人旅をしました。本来なら学生時代にそのような経験をしたかったのですが、会社に入ってからなかなか機会がなく、やっと最近時間ができたのがきっかけです。ベトナムは北(ハノイ)から南(ホーチミン)まで10日間かけて縦断しました。汽車中でベトナム人家族と一緒にご飯を食べたり、それぞれの街でいろんな楽しいツアーなどに参加して現地の人と盛り上がったりで大変楽しい経験でした。

ベトナムを満喫してホーチミンからバンコクへの機内である方と席を隣にすることになります。その方は「こうして出会うのも何かの縁だから...こういうのは大事だよ!貴重だよ!」とパワフルに熱く語り、勢いに押されるまま、あっという間にバンコクへ着いてしまいました。

その方が以前PREXに勤めておられた方で、帰国後しばらくしてから「こんな合宿セミナーが開催されるけど瀬戸口君、どうだろう!」といった感じでメールが入ったのが今回の合宿セミナーへ参加することになったきっかけです。セミナーへ参加してみると昔の友人も参加しており偶然の再会もすることができました。私がベトナムへ旅行しようと考えたこと、帰りの機内で席が同じ場所になったこと、これらの偶然がなければ今回のセミナーへの参加は全く貴重な経験もできませんでした。

今回の参加もそうですが、このような機会を知らず、また機会があってもその一歩を踏み出さずに貴重な経験ができるチャンスを逃している人もたくさんいるのではないかと思います。私はそれ以来、旅先で出会った人にこの話をして「いろんな場所でのいろんな人との出会いは貴重だよ!」と話をしています。あの方のようにパワフルには熱弁できませんが...

きっかけはどこに転がっているかわかりません。でもその一歩を踏み出すかどうかは自分でコントロールできます。これからも好奇心旺盛に視野を広げていきたいと思っています。

セミナー終了後も交流を継続 NTT西日本 武川 恵美さん



合宿セミナーでは日越の青年45名が、5つのグループに分かれて、主に労働環境や生活習慣の違いについて話し合いました。

話し合いが始まって数時間は、互いの質問に対する回答や意見が噛合わない印象を受けました。本当に相手を理解し、自分の言いたいことが伝わっているのだろうか?という疑問を持って討議を続けているうちに、お互いの持つ「背景」の違いが、原因であることに気がきました。例えば、労働環境を討議する上で「通勤」という背景の違いがありました。徒歩で会社へ行くベトナム人と電車で通う日本人では、同じ勤務時間帯であっても、実質的な労働時間や帰宅時刻、アフター5の過ごし方が異なります。普段は意識せずに当たり前と思っている事情が、知らず知らずのうちに考え方や習慣に影響していることを実感しました。時間をかけて話せるのは、合宿の良さだと思います。

合宿終了後、日本人参加者でメーリングリストを立ち上げました。立ち上げて1ヶ月が過ぎましたが、50件以上のメールが交わされています。今回の合宿は、日本人参加者も「背景」のかなり異なる集まりでしたので、どのような内容になるかと思っていたのですが、各人がネット上のマナーを守り、かつ自分の得意分野の情報を提供しています。海外の方に観光地を案内する1日ボランティアやインドネシアの短期研修の参加を呼びかけたり、休日に見たベトナム映画の紹介をしたりする者もいます。異業種交流会という名の飲み会のお知らせなども。今後は、合宿で交流したベトナム青年の参加も促していきたいと考えています。



グループ討議

書寫山(しよしゃざん)散策





**ウクライナ
スヴァントネンコ・ヴォロジミルさん**

**精油会社“ Lebedyn ”キエフ事務所
マーケティング販売部長**

2000年度NIS成績優秀者訪日研修に参加

大阪で実施された「中小企業経営のセミナー」に参加して1年半以上過ぎますがPREXの皆さんに親切にいただいたことを懐かしく思っています。そこでウクライナと日本の関係がより一層深まることを期待してメッセージを書くことにしました。

セミナーでは経験豊富な竹原先生、石田先生、長友先生に管理、マーケティングの講義をいただいたあと実践的なグループ討議を行いました。また松尾捺染(株)(株)ハーマン精機、大阪証券取引所を訪問して学んだ知識の成功例を見ることも出来ました。休日にはPREXの皆さんのお蔭で大阪、京都の博物館やお寺などを観光し日本の歴史や文化、習慣、伝統にも触れました。

ウクライナと日本は遠く離れていますが、私たちは古くからの仲間のようにお互いを感じることが出来ました。研修を終えてウクライナに帰ってから数ヵ月後に、竹原先生とPREXの森光さんが別の研修実施のためキエフを訪れた際再会し、文化的背景の違いに関わらず共通点が多くあることを確認しあうことが出来ました。ウクライナからPREXの研修に参加した研修員たちはこれからも日本の伝統と習慣を大切に思い続けるでしょう。日本の皆さんと交流することはとても素晴らしいことだと思っています。ご参考までにウクライナについて簡単に紹介したいと思います。

ウクライナについて

- 1.首都：キエフ(人口約300万人)
- 2.人口：およそ4,900万人
- 3.面積：6,037,000km²
- 4.東方ヨーロッパに位置し、ポーランド、スロバキア、ハンガリー、ルーマニア、ベラルーシ、モルドバ、ロシアに囲まれている。
- 5.気候は温暖な大陸性気候である。
- 6.共和制である。
- 7.独立記念日は1991年8月24日
- 8.主要産業は農業、鉄鋼業、化学産業、食物産業、航空機設計、航空宇宙工事、機械科工学などの分野である。



また、私の働いている精油会社は、ウクライナで最初の民間精油会社の1つで、1994年にキエフからおよそ350km離れたところにあるLebedynという町の近くに設立されました。ここは以前ミサイル基地があったところです。工場ではエンジンオイル、ギアオイル、タービン油などを製造しています。現在、この会社のマーケットシェアはウクライナ市場で10%となっており、今後はISO9001の取得、販売促進、新しいカーケア商品などを開発できる経営を目指しています。

Lebedyn Oil Processing Plant Ltd. (LEOL)
19-th Augusta, 8 Lebedyn, Sumy region, 42200 Ukraine
Tel: +38(05445)2-03-88 Fax: +38(05445)2-27-16 E-mail: info@lhmz.sumy.ua

事務局
ニュース

大阪経済記者クラブとの懇談会を開催

9月25日12:00～13:30、PREX会議室においてPREX井上義国会長（ダイキン工業株式会社特別顧問）と大阪経済記者クラブ記者との懇談会を開催。10社12名の記者が参加した。

懇談会では、政府開発援助（ODA）予算削減に伴うPREXの対応や、最近の研修事業について報告。また井上会長は「構造改革の中で、ODA予算の削減はやむを得ないにしても、その中の人材育成費は減らすべきではない」とし、「人材育成は成果が出るまでに年月がかかるが継続することが必要。PREXの活動や、人材育成の重要性についてメディアで取り上げることが大切だ」と話した。

なお、PREX設立の1990年4月～2001年9月25日までの研修参加者は受入研修1,771人、海外研修4,250人と合計6,000人を超えた。

インドネシアに対するJICA新規プロジェクト

第2次調査団に参加予定

10月31日から11月14日までインドネシアでの新規プロジェクトについて第2次短期調査へPREX深津プロジェクト担当部長、関野部長がジャカルタ、スラバヤに出張する予定。

第1次調査（8月12日から25日）については本紙2ページで紹介。

11月実施の研修

南アフリカ貿易促進セミナーを実施

日時 11/12～12/8

参加者 南アフリカの対日輸出振興に携わる商工会議所リーダーおよび州政府職員 10名

内容 日本やアジアの経済発展の現状を貿易の面から考察。特に経営戦略の中で、日本企業がどのような国際化戦略をとってきたのかを紹介する。また日本市場の現状について理解してもらい、対日輸出促進策を具体的に考察する。セミナーではカナダのサスカチュワン大学 ケネス・スティーブン・コーツ先生が来日し、多民族国から見た日本の企業文化や日本市場の特徴について講義をおこなう。

東欧特設・中小企業振興セミナーを実施

日時 11/19～12/15

参加者 ブルガリア、ハンガリー、ルーマニア、アルバニア、ポーランド、チェコ、リトアニアの中小企業の振興に携わる政府職員 12名（予定）

内容 市場経済への移行過程にある東欧諸国で大きな課題とされているのが中小企業の振興である。日本の中小企業振興政策の歴史や現在の施策を紹介することで、東欧諸国内での中小企業発展のために有効な施策の立案・実行を目指す。

C O L U M N

お国柄の違い.....

2001年度実施予定の「仏語圏アフリカ中小企業政策セミナー」のニーズ調査のため、8月4日から19日西アフリカのセネガル及びブルキナファソの2カ国を訪問

セネガルは大西洋に面した港湾都市ダカールを首都とする国です。以前より象牙海岸（コート・ジボアール）と並んで西アフリカ地域における経済・社会の中心として発展してきましたが、最近の象牙海岸における政情不安定から、投資などは一気にセネガルへ移動しているようです。そのためダカール市内にはタクシーを中心に車があふれ、物売りでごった返していました。日用品から衣料品、絵画まで手に手に信号待ちする車の間を売り歩いているのですが、その多くが台湾から輸入されたものを仕入れているとのことでした。

また、街行くビジネスマンや面談した行政官の多くが携帯電話を利用し、市内には多くの「インターネット・カフェ」があり、通信状況は多少悪いようですが、インターネットを利用している人々も多いようです。街は活気と喧騒に溢れ好調な経済を反映しているかのようでした。

ブルキナファソは内陸国で、訪問したワガドゥグゥもダカールよりは小さな町です。真っ先に感じたのは、レストランやホテルで接した現地の人たちの物静かな様子です。皆黙って立っていて、目が合うとニコッと静かに微笑みます。街の中では常に箒やブラシで道路を掃除している人がいてゴミが殆ど見当たりません。また街を行き交う多くの自転車やバイク（中国かベトナムかと思うほどの数です）が建物の前に駐輪される時にはハンドルまで同じ向きにして並べられていました。これは見事なまでに徹底されていました。国民性なのかどうかは分かりませんが、この広いアフリカにはもっとお国柄の違う国や地域がたくさんあるのだろうな、と想像を掻き立てられました。



ダカール市内の様子

国際交流2部 課長代理 森光 恵美子



ブルキナファソのヒアリング先で（左からJICA象牙海岸青木次長、大林教授、筆者森光）

編集・発行

財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事 三田 昌孝

大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル24階
〒530-6691（中之島センタービル内郵便局私書箱60号）

TEL 06-6441-2650
FAX 06-6441-2640

ホームページ: <http://www.prex-hrd.or.jp>
電子メールアドレス: prex@prex-hrd.or.jp